

# 表記による想起されるイメージの違い —在日中国人留学生と日本人大学生の調査より—

○余 洋 (広島大学)

井上 弥 (広島大学)

キーワード：表記，イメージ，大学生

## 問題と目的

日本語の漢字表記，ひらがな表記とカタカナ表記に対するイメージの比較研究されてきている。岩原・八田(2004)は，漢字表記は「堅い」「難しい」「知的な」，ひらがな表記は「幼い」「柔らかい」「簡単な」，カタカナ表記は「外国」「冷たい」「気取った」という感情的意味を内包しているため，文章を書く時に，これらの感情的意味を考慮することで，効果的に文脈情報を伝達しようとしていると指摘している。杉島・賀集(1992)は，ひらがな表記は，漢字表記，カタカナ表記に比べ，概して力量性次元の正方向にあり，表記間の差が力量性次元で顕著であると指摘している。このように，漢字，ひらがな，カタカナはそれぞれ独自のイメージを伝えられることが明らかになっている。

漢字はそもそも中国から伝わってきたものであるため，日中同形語を研究材料とした日本人と中国人のイメージの比較研究もある(e.g., 佐々木, 2010; 張, 2017)が，日中同形語以外の漢字とひらがな，カタカナ表記自体に対して，日本語学習者はどのようなイメージを持っているのかについては研究されていない。さらに，イメージを測定する代表的な方法とされているSD法を用いた研究もされていない。

そこで，本研究では，在日中国人留学生と日本人大学生を対象とし，SD法を用いて漢字，ひらがな，カタカナに対するイメージの相違について比較・検討を行うことを目的とする。本稿では，日本人大学生の結果を報告する。

## 方 法

**被調査者** A大学日本人学生83名を対象とした。

**材料** 評定概念は予備調査に基づき抽出された10語(「きれい」「まんが」「めがね」「けが」「りんご」「ゆり」「きざ」「ついたて」「もくれん」「ぶどう」)を，3表記した，30項目を用いた。評定尺度は評価性次元として「好きな—嫌いな」「きれい—きたない」「気持ちの良い—気持ちの悪い」の3形容詞対，力量性次元として「強い—弱い」「重い—軽やか」「かたい—やわらかい」の3形容詞対，及び活動性次元として「親しみやすい—親みにくい」「読みやすい—読みにくい」「活動的な—受動的な」の3形容詞対，合計9形容詞対を7用いた。質問項目として，「各表記を見て感じるイメージを形容詞対で評定し，あなたのイメージにあてはま

るところに○をつけてください」と教示し，7件法で回答を求めた。

## 結果と考察

**因子分析** 形容詞対について因子分析(最尤法，プロマックス回転)を行った結果，第1因子は，「評価因子」，第2因子は「力量因子」，第3因子は「活動因子」と命名した。「活動的な—受動的な」を除いたこれら3つの因子について分析した。

**分散分析** すべての因子においてことばの主効果，表記の主効果とこれらの交互作用は有意であった。ここでは，活動因子を例として，分散分析の結果を述べる。10語の3つの表記それぞれの活動因子の得点をプロフィールとしてFigure 1に示した。

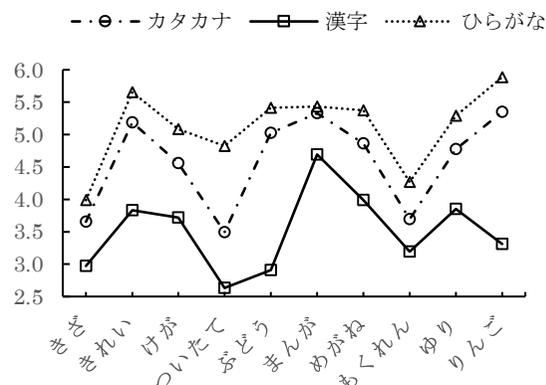


Figure 1 活動因子の表記別プロフィール

ことばの主効果 ( $F(9, 738) = 67.99, p < .001, \eta^2 = .45$ )，表記の主効果 ( $F(2, 164) = 146.03, p < .001, \eta^2 = .64$ )とも有意であった。さらに，これらの交互作用 ( $F(18, 1476) = 13.42, p < .001, \eta^2 = .14$ )も有意であった。各効果について多重比較(Holm法)を行ったところ，概して，カタカナより漢字，漢字よりひらがなの方が活動的であることがわかった。しかし「きざ」と「まんが」では，カタカナとひらがなの2つの表記に違いがみられないことがわかった。

この結果から，表記による想起されるイメージの差異が日本人大学生に見られるが，それはことばによって異なることが明らかになった。今後，留学生と日本人学生を比較していく。